

令和4年度（2022年度）第1回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会

後志地域いじめ問題等対策連絡協議会事務局（後志教育局）

令和4年（2022年）7月14日（木）、後志合同庁舎において、管内における生徒指導上の諸問題への対策の推進を図ることを目的として、「令和4年度（2022年度）第1回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会」を開催しました。会議には、本協議会の構成員26名が出席し、各機関での取組や連携の在り方などについて協議を行い、今年度の重点を決定しました。

会議の主な内容は次のとおりです。



各機関の発言等について（協議から）

1 いじめについて

- ・ SNSを起因としたいじめ問題が、小学校中学年でも起きている。
- ・ いじめアンケート調査等を活用して、早期発見に取り組んでいる。
- ・ 日常の具体的な場面の寸劇を用いたロールプレイを行い、児童生徒が連携しながら、いじめ防止の取組をしている。
- ・ いじめに対しては学校が対応すること、保護者が対応すること、専門の医療機関が対応することに整理している。また、場合によっては専門家チームと協力していくことが大切ではないだろうか。
- ・ 人権教室では、児童生徒に相手の気持ちを考え、思いやりの心を育てることの必要性、重要性を学んでもらった。子どもたちから「いじめを見て見ぬふりをするはいけない」などの意見が多く出された。



2 不登校について

- ・ 不登校の原因は様々であり、絡み合っているのが現状である。
- ・ 先生と生徒が人間関係を構築し、生徒が精神的に安定している状況になったときに勉強ができるよう、自習室を準備している。
- ・ 保健所として、子どもが不登校である保護者への個別支援として、たんぼぼの会を開催している。不登校や引きこもりの根本的な解決は困難であっても、何でも語れる場の保障や、保健師がいることの安心感により、「気持ちが楽になった」、「保護者の変化により子どもが変化した」、という声が聞かれた。
- ・ 幼児期から小・中学校にいたるまで、相手に寄り添う気持ちや優しさを持つ子どもを育てることが何よりも大切である。



今年度の重点

- いじめの認知に対する理解を深める取組及び組織による対策の推進
- 不登校児童生徒や保護者が社会から孤立しない取組の推進

【北海道いじめ問題解決支援外部専門家チーム員から】

- いじめ、不登校ともに早く見つけ、早く介入することが大事である。いじめについては、いじめが悪いことだと子どもたちが理解する機会を設けることが大切である。いじめの未然防止という点では道徳教育の充実を図る必要がある。不登校については子どもたち一人一人のバックグラウンドがそれぞれ異なり、特別な支援が必要な場合もある。特別な支援が必要な子どもについての勉強会を開き、より早く気付くことができる体制づくりが必要である。

- 令和4年度（2022年度）第2回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会では、今年度の重点に基づいた各学校、機関の実践事例報告、意見交流を行います。